総合人文科学研究センター研究部門
「信頼社会」研究

2016 年度第 1 回研究会の報告

日時：2016 年 4 月 16 日（土）14 時から 16 時
会場：戸山キャンパス 33 号館 16 階第 10 会議室

このたび開催された「信頼社会」研究の 2016 年度第 1 回研究会では、参加者約 10 名とともに、一つの話題提供と質疑が行われた。話題提供者は、川副早央里先生（本学助手）である。

川副早央里先生（本学助手）「原発事故後の被災地域における信頼のゆらぎ」のまとめ

本報告では、福島県いわき市におけるフィールドワークで得られたデータに基づいて、まず東日本大震災後から現在に至るまでの「原発避難」をめぐる状況の変化、そして災害が展開していく過程で生じた社会的分断とコンフリクトの様相を解説した。そのうえで、本報告の事例においてみられた「科学」、「政府・行政」、「地域社会内」における信頼のゆらぎを指摘し、それぞれの信頼が失われたことにより被災後の人々の行動が個人化し、被災者間の分断が生じていった過程を解説した。また、信頼が失われた状況において、住民が主体となって個人的・対面的交流を行い、新たに信頼を回復しようとする取り組みが行われていることを実例を用いて紹介した。報告後のディスカッションでは、「信頼」「安心」「安全」という概念の違いは何か、われわれは本来日常生活で科学に接し、科学を信頼してきていたといえるのか、地域内に異質性が出現した際に宗教はどう関わるのか、「賠償」の哲学的根拠はなにか、といった問題提起があった。加えて、調査法に関しても議論が及び、調査対象者の選定方法やラポール形成で心がけたこと、計量化されない・表出してこない被災者や被災の在り方に関する理解などに関して意見交換が行われた。（川副先生記）